



卒業の季節です

3月18日（火）に卒業式があります。締め切りの関係で卒業式についてお伝えすることは叶いませんが、3月はこれまでに「6年生を送る会」「謝恩会」を行いましたので、それらについてお伝えいたします。

今年の卒業生は5名です。3月5日には、5年生が中心となり、各学年が準備した出し物やクイズ、6年生に向けたはなむけの言葉、プレゼント渡しなどが行われました。1年生と6年生と一緒にじゃんけん列車をしたときには、6年生の背の高さに、子どもの6年間の成長を感じました。また、踊りに誘われ、はにかみながらも一緒に踊る姿に、弥栄の子どもたちの優しさ、温かさを感じました。



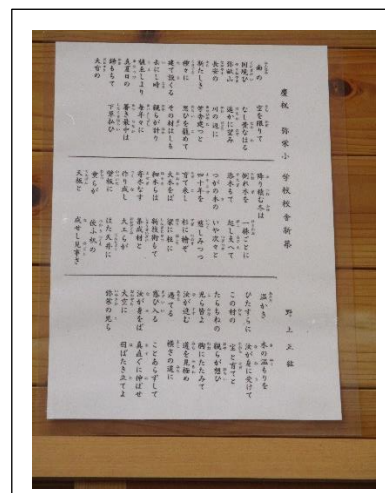
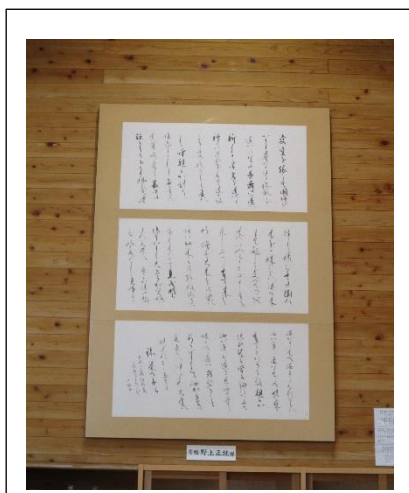
3月7日の謝恩会では、先生方一人一人との思い出を振り返ったり、心のこもった感謝状を渡してくれたりしました。小学校で6年生が活躍する場が少しずつ終わりを迎える寂しさを感じながらも、しっかりと会を進行する立派な6年生の姿に感心する時間となりました。正直、もう一年いてほしいな・・・と思ってしまいました・・・。



ご存じですか？弥栄小校舎に込められた想い。

弥栄小学校には、野上先生が書かれた額が3枚あります。一つ目は体育館にある「校歌」、二つ目は玄関から2階に上がる踊り場にある「弥栄小学校校舎について」(右写真)、これは、杵束小学校PTA保護者のみなさんが育てた木を使って建てられた校舎であり、大切に使ってほしいという内容です。三つ目は多目的室にある「弥栄小学校新築慶祝」(下左写真)です。

恥ずかしながら、何と書いてあるのか私には読むことができませんが、横に印刷したものがありません(右写真)。調べながら、このようなことではないかと子どもに伝わる言葉にしてみましたので、ご紹介いたします。



弥栄小学校新築お祝いの言葉

野上正紘 (のがみまさひろ)

南の空の果て 国の境目もない 山々が折り重なる弥畝山が遠くに見える長安川のほとりに新しい校舎が建つ たくさんの思いを込めて 建てるために使う木材は 昔 保護者会の親たちが弥栄の自然にふさわしい校舎にしようと計画し 植えた時から 毎年真夏の暑い時には 鎌を持って下草を刈り 大雪の降る冬は 倒れた木を一株ごとに添え木をし 起こして支えて いつまでも続くようにと願いを込めてずっと40年間 愛情をもって大切に育ててきた杉や檜 大きな木は梁や柱にし 細い木は新しい技術で寄木して集成材として作り直し 大工さんたちが壁板や天井や子どもたちが使う机の天板にしてい く なんと見事なこと 温かい木のぬくもりを全身に受けて この村の宝に育てよという親たちの想いを みんなが心に受け取って 自分が進む道を見極め 誤った横道に迷って入ることなく 自分の身をまっすぐに伸ばし 大空に羽ばたいて 立派な人になってください 弥栄の子どもたちよ

弥栄小に来られた方々は皆、「素敵な校舎ですね」「きれいな校舎ですね」と言われます。20年経っても、木のぬくもりを保ち続ける本当に素敵な校舎です。この校舎に込められた、保護者や地域の皆様の想いを知ったとき、私は感動と共に心が引き締まる思いでした。我々教員もこの想いをしっかりと受け止めて、教育に当たりたいと改めて思った次第です。